

平成 22 年度第 4 回公立大学法人滋賀県立大学経営協議会議事録

日時・場所：平成 23 年 3 月 1 日（火）10：00～12：00 評議会室

出席者：曾我理事長、川口副理事長、大田理事、菊池理事、仁連理事、北村委員、吉川委員、高橋委員、南委員、結城委員

事務局：堀部事務局次長、小島財務グループ統括、高田経営戦略グループ統括、杉野学生・就職支援グループ統括、藤野教務グループ統括、郡田図書情報グループ統括、久保田地域貢献研究推進グループ統括、山田副参事、松野副参事、吉田副主幹

【議 題】

(1) 学内規程の一部改正について

堀部事務局次長から資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

(2) 平成 23 年度年度計画（案）について

はじめに曾我理事長から資料に基づき全体概要について、その後、副理事長および各理事からそれぞれ担当分野についての説明があった。審議の結果、原案どおり承認された。

委員からは、前年度の法人評価で「Ⅱ」と評価を受けた項目についてはどのような対応を行ったのかという質問があり、きちんと取り組んでおり既に遅れは取り戻しているとの回答があった。また、重点推進施策として研究のグループ化の促進とあるがどのような趣旨かとの質問があり、これに対しては、大きな研究テーマに対して学科の枠を越えて関連する教員を集めて研究に取り組む体制を推進していきたいとの回答があった。

(3) 平成 23 年度予算（案）について

小島財務グループ統括から資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

委員からは、文部科学省に採択された大学教育推進プログラムは事業仕分けの結果どのようなものかとの質問があり、これに対しては、本学をはじめ県や公立大学協会などから要望書を提出するなど強く働きかけた結果、既に採択された事業については引き続き補助対象となったとの回答があった。

(4) 平成 22 年度 3 月補正予算（案）について

小島財務グループ統括から資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

委員からは、国立大学の目的積立金が次期中期目標期間に繰り越せなかった事例も念頭に目的積立金の用途を考えなければならないとの意見があり、これに対しては、県の指示により目的積立金の一部を予算に充当しており、今後もこのようなことが予想されることから、単純に国立大学と同様の取り扱いがされることはないと考えているとの回答があった。また、欠員により教員人件費を減額補正しているが教員充足に努めるべきではないのか意見があり、これに対しては、後任の教員採用が遅れることがありその分の教員人件費が減額補正されているとの回答があった。

(5) 認証評価の評価結果について

曾我理事長から資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

委員からは、改善を要する点が1つのみであり、選択的評価事項についても本学の特色が取り上げられるなど非常によい結果であったと評価できるとの意見があった。これに対しては、改善を要する点として指摘のあった事項については対応していく必要があるが、大学院大学ではない本学において博士後期課程の入学定員を充足するには入学定員や院生への財政的支援などの課題があるとの回答があった。

【報告事項】

(1) 平成22年度第3四半期決算状況について

小島財務グループ統括から資料に基づき報告があった。

委員からは、厳しい財政状況から給与が削減される中で教職員のモチベーション維持、メンタルヘルス対策などの福利厚生が重要になってくるのではないかと意見があった。

(2) 平成23年度入学試験志願状況（一般選抜）について

藤野教務グループ統括から資料に基づき報告があった。

委員からは、県内からの志願割合が低いのではないかと質問があり、これに対しては、県内高校生に対しては別途入学定員の20パーセントを推薦入試で確保しており、全体では県内学生は35パーセント程度となっているとの回答があった。

(3) 平成22年度卒業・修了予定者の進路・就職内定状況等について

杉野学生・就職支援グループ統括から資料に基づき報告があった。

委員からは、既卒の未内定者に対する支援に関して質問があり、これに対しては、既卒者対象の採用情報など個別に情報提供を行っているが、今後も引き続きハローワーク等と連携しながら情報提供をしていきたいとの回答があった。